



BNY MELLON
INVESTMENT MANAGEMENT

BNYメロン・リアル・リターン・ファンド Aコース (為替ヘッジあり) / Bコース (為替ヘッジなし)

追加型投信 / 内外 / 資産複合

交付運用報告書

第10期 (決算日2023年3月17日)

作成対象期間 (2022年3月18日~2023年3月17日)

| | 第10期末 (2023年3月17日) | |
|--------------|--------------------|----------------|
| | Aコース (為替ヘッジあり) | Bコース (為替ヘッジなし) |
| 基準価額 | 10,421円 | 16,775円 |
| 純資産総額 | 3,004百万円 | 10,041百万円 |
| 第10期 | | |
| 騰落率 | △8.2% | 5.7% |
| 分配金 (税込み) 合計 | 0円 | 0円 |

(注) 騰落率は分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

受益者のみなさまへ

平素は、格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「BNYメロン・リアル・リターン・ファンド Aコース (為替ヘッジあり) / Bコース (為替ヘッジなし)」は、2023年3月17日に第10期の決算を行いました。当ファンドは、主として、米ドルベースで絶対収益の追求を目指すアイルランド籍外国投資信託である「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」および国内籍証券投資信託である「マネーポートフォリオ・ファンド (適格機関投資家専用)」に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目指して運用を行っております。ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において、運用報告書 (全体版) に記載すべき事項を電磁的方法により提供する旨を定めております。運用報告書 (全体版) は、下記方法により閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書 (全体版) は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。

<運用報告書 (全体版) の閲覧・ダウンロード方法>
下記のホームページの「ファンダー一覧」を選択いただき、当ファンドの「運用報告書 (全体版)」を選択いただくと、閲覧およびダウンロードすることができます。
なお、過去5年間の運用報告書 (全体版) につきましては、「ファンダー一覧」画面の右「ファンド情報」欄の一番下の「運用報告書 (全体版) 過去分」を選択いただくと、閲覧・ダウンロードすることができます。

BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内1丁目8番3号
丸の内トラストタワー本館

<運用報告書に関するお問い合わせ先>
運用商品開発部

電話番号: 03-6756-4600 (代表)

受付時間: 営業日の9:00~17:00

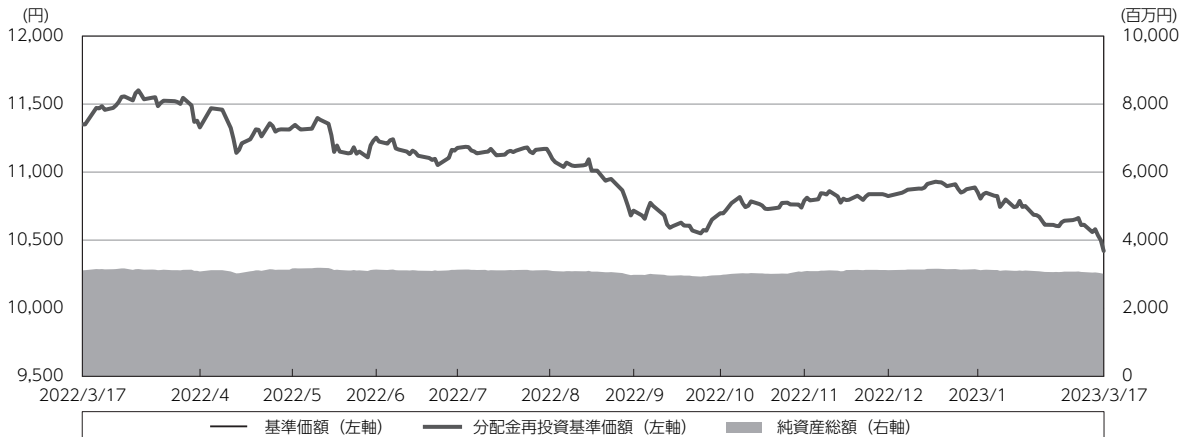
ホームページ <https://www.bnymellonam.jp/>

BNYメロン・リアル・リターン・ファンド Aコース (為替ヘッジあり)

■運用経過

(2022年3月18日～2023年3月17日)

期中の基準価額等の推移



期 首：11,351円

期 末：10,421円(既払分配金(税込み)：0円)

騰 落 率：△8.2%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。期首の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド(USD Xクラス)」が下落したことに加え、為替変動の影響を抑えるため主要投資対象に対して対円でのヘッジを行っていたことによるコストも下落要因となりました。

以下は、当ファンドの主要投資対象である「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド(USD Xクラス)」の変動要因です。

(上昇要因)

- 2022年10月から2023年1月末にかけて、物価が鎮静化に向かい、米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げペースを緩めるとの観測を背景に世界株式市場が上昇基調で推移する中、株式の保有がプラスに寄与しました。

(下落要因)

- 2022年4月から2022年9月末にかけて、ウクライナ情勢の悪化に加えて、インフレ高進を背景にFRBが金融引き締め姿勢を強め世界株式市場が下落する中、株式の保有がマイナスに影響しました。

1万口当たりの費用明細

(2022年3月18日～2023年3月17日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|-----------|----------|------------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信託報酬 | 145 円 | 1.320 % | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は、11,021円です。 |
| (投信会社) | (45) | (0.413) | 信託財産の運用指図、法定開示書類の作成、基準価額の算出等の対価 |
| (販売会社) | (97) | (0.880) | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 |
| (受託会社) | (3) | (0.027) | 信託財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価 |
| (b) その他費用 | 59 | 0.534 | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 |
| (保管費用) | (1) | (0.005) | 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (監査費用) | (3) | (0.025) | 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (印刷) | (1) | (0.009) | 目論見書、運用報告書等の印刷・交付等に係る費用 |
| (その他) | (55) | (0.495) | 組入ファンドの管理報酬等 |
| 合 計 | 204 | 1.854 | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

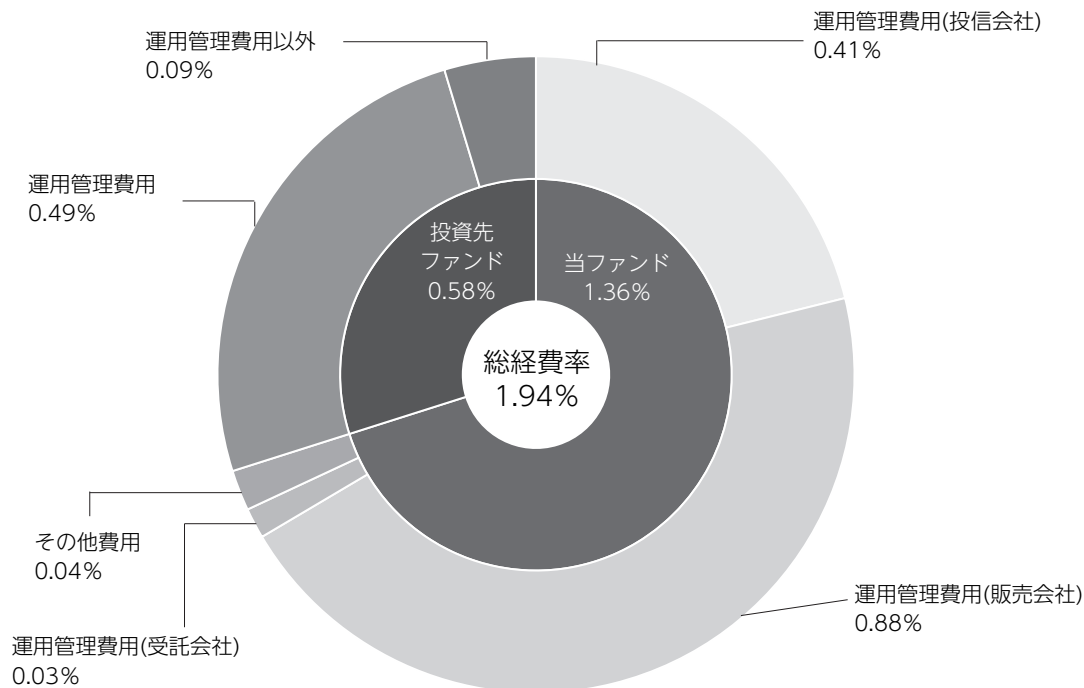
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.94%です。



| | |
|----------------------|-------|
| 総経費率 (①+②+③) | 1.94% |
| ①当ファンドの費用の比率 | 1.36% |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.49% |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.09% |

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

| | 2018年3月19日 第5期末 | 2019年3月18日 第6期末 | 2020年3月17日 第7期末 | 2021年3月17日 第8期末 | 2022年3月17日 第9期末 | 2023年3月17日 第10期末 |
|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
| 基準価額 (円) | 9,940 | 10,154 | 9,356 | 11,634 | 11,351 | 10,421 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | 2.2 | △7.9 | 24.3 | △2.4 | △8.2 |
| 純資産総額 (百万円) | 5,323 | 4,202 | 3,007 | 3,120 | 3,108 | 3,004 |

(注) 上記騰落率は、1年前の決算応当日との比較で、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定しておりません。

投資環境

株式市場

期初、原油高の動きが一巡したことやロシア政府による債務不履行がひとまず回避されたことで投資家心理が改善し2022年3月末にかけて上昇したものの、ウクライナ情勢の悪化に加えてインフレ高進を背景にFRBが金融政策の引き締め姿勢を一段と強める中で長期金利が上昇し、6月半ばにかけて世界株式市場は下落基調で推移しました。その後利上げペースの鈍化期待が広がり8月半ばにかけて反発しましたが、根強いインフレ圧力を背景にFRBが大幅な利上げを継続する姿勢を示したことに加え、英国で財政悪化懸念が台頭したことから、9月末にかけて再度下落しました。

10月以降は底堅さを示す米国経済指標や金融政策動向をにらみ下落する場面が見られたものの、物価が鎮静化に向かう中、米国金融当局が利上げペースを緩めるとの観測を背景に2023年2月初旬にかけて上昇基調で推移しました。期末にかけては米国経済指標が底堅さを示す中で金融引き締めの長期化観測が台頭したほか、米国の一部銀行に対する懸念が高まり軟調となりました。

債券市場

先進国債市場は、FRBが3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）において政策金利の誘導目標を0.25%引き上げ利上げサイクルを開始し、6月の会合では0.75%の大幅な利上げを決定しました。そうした中、先進国債市場は3月から6月前半にかけて急速に下落しました。6月後半から7月は急速な利上げから米国の景気減速懸念が生じて原油価格が下落したため、インフレ鎮静化の見通しが浮上り先進国債市場は反発しました。しかしながら、8月以降はパウエル議長がインフレ抑制のため利上げ継続姿勢を明確にしたことから、再び下落に転じ、秋口までそうした流れが継続しました。

11月以降は、米国や欧州などでインフレのピークアウトの見方が高まる一方で、底堅さを示す米国経済指標を背景に金融引き締めの長期化観測が台頭したほか、米国の一部銀行に対する懸念が高まる中で上下する展開となりました。

為替市場

急ピッチで金融引き締めを行う米国に対して、日本では強固な金融緩和姿勢が維持されるなど、日米金融政策の方向性の違いから、2022年3月から10月半ばにかけて米ドルは円に対して上昇しました。しかし、その後は政府・日本銀行によるドル売り・円買いの為替介入、米国での利上げペース鈍化観測、日本銀行による長期金利の変動許容幅の拡大などから一転して米ドルは対円で下落しました。

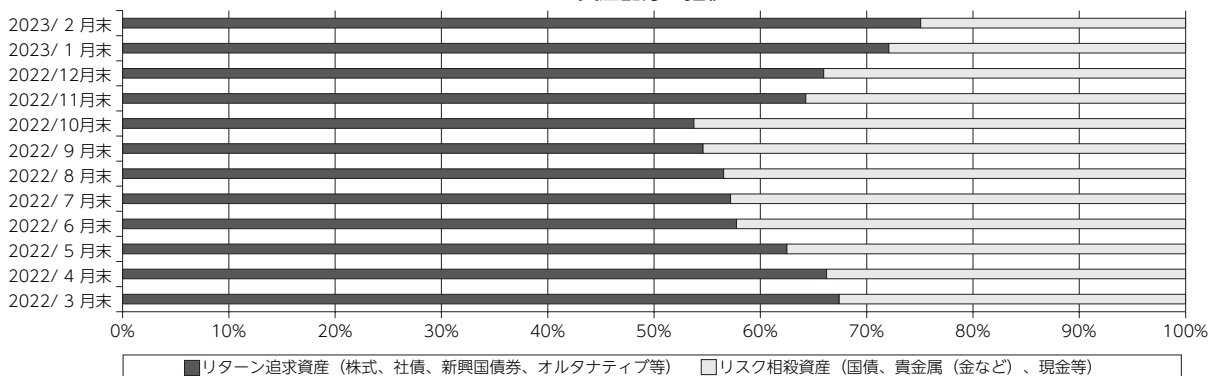
2023年2月以降は堅調な米国経済指標の結果を受けて、FRBによる金融引き締めの長期化観測から米ドルは対円で再度上昇に転じましたが、期末にかけては米国の一部銀行に対する懸念が高まる中でリスク回避姿勢が強まり米ドルは対円で軟調となりました。

当ファンドのポートフォリオ

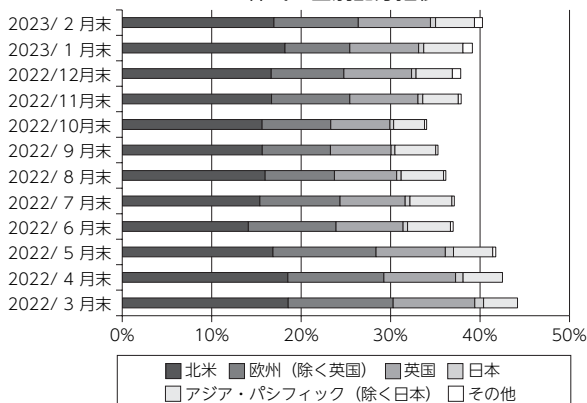
当ファンドは、主として、「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド（USD Xクラス）」及び「マネーポートフォリオ・ファンド（適格機関投資家専用）」に対する投資を行いました。期を通じて「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド（USD Xクラス）」の組入比率を高位に保ちました。為替については、米ドルに対して為替ヘッジを行いました。

主要投資対象である「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド（USD Xクラス）」においては、主として、世界の株式、債券、通貨等を中心に、リート（不動産投資信託証券）、コモディティ（商品）およびその他の代替投資商品（オルタナティブ資産）への投資を行い、様々な投資環境に柔軟に対応しながら、下記のグラフのように投資配分の変更を行い、中長期的に米ドルベースで絶対収益の追求を目指して運用が行われました。

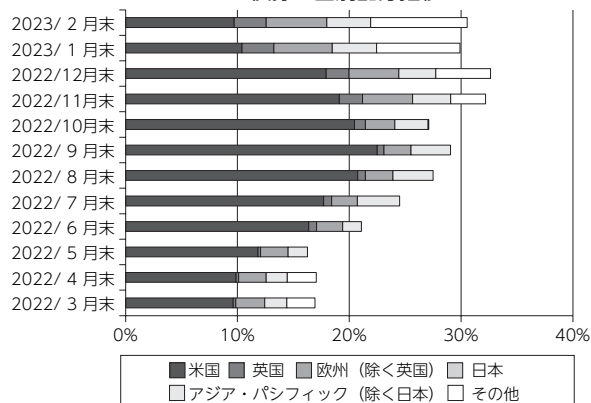
資産配分の推移



株式の国別配分推移



債券の国別配分推移



当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数などは設定していません。

分配金

当期の収益分配については、基準価額の水準等を勘案し、見送りとさせていただきます。分配に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

| 項 目 | 第10期 |
|--------------------|---------------------------|
| | 2022年3月18日～ 2023年3月17日 |
| 当期分配金 (対基準価額比率) | － －% |
| 当期の収益 | － |
| 当期の収益以外 | － |
| 翌期繰越分配対象額 | 1,405 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」および「マネーポートフォリオ・ファンド (適格機関投資家専用)」に対する投資を継続してまいります。

投資比率については、「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」への配分を高位に保ってまいります。また、為替については、米ドルに対して為替ヘッジを行います。引き続き、信託財産の中長期的な成長を目指してまいります。

■お知らせ

●約款変更のお知らせ

当ファンドは、信託期間を10年延長し2033年3月17日までとする約款変更を行いました。また、当ファンドが投資対象とする外国投資信託の管理報酬等の引き上げにより、受益者が実質的に負担する信託報酬の総額を抑制するため、当ファンドの信託報酬率を引き下げる約款変更を行いました。(2022年6月17日付)

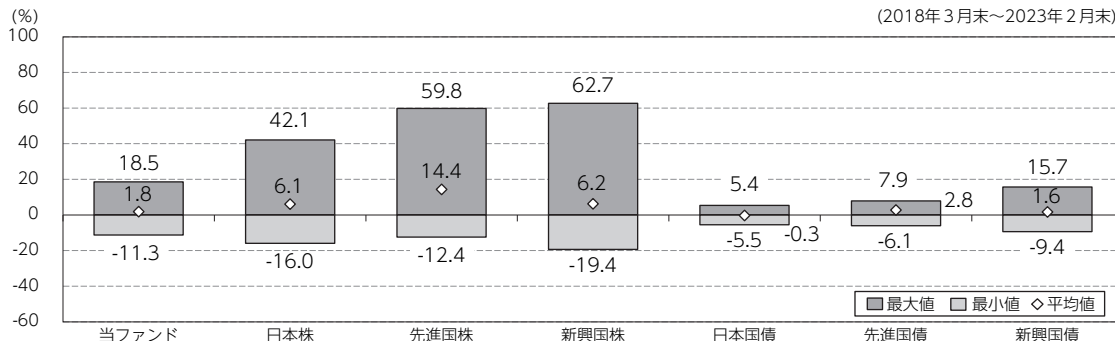
■当ファンドの概要

| | |
|--------|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／資産複合 |
| 信託期間 | 2033年3月17日まで |
| 運用方針 | 信託財産の中長期的な成長を図ることを目指して運用を行うことを基本とします。 |
| 主要投資対象 | 米ドルベースで絶対収益の追求を目指すアイルランド籍外国投資信託である「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」および国内籍証券投資信託である「マネーポートフォリオ・ファンド (適格機関投資家専用)」を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | ①「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」の組入比率は高位を保つことを基本とします。 ②「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」においては、世界の株式、債券、通貨を中心に、リート (不動産投資信託証券)、コモディティ (商品) およびその他の代替投資商品への投資を行います。また、効率的なポートフォリオ運用およびリスクヘッジ目的でデリバティブ商品に投資を行う場合があります。 ③外貨建資産については、原則として、対円での為替ヘッジを行います。 ④市況動向、資金動向その他の要因等によっては、上記のような運用ができない場合があります。 |
| 分配方針 | 毎決算時 (原則として毎年3月17日。休業日の場合は翌営業日) に、原則として、基準価額水準等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。 |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2018年3月末～2023年2月末)



(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年3月から2023年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社 (以下「J P X」という) が算出・公表している、日本の株式を対象として算出した株価指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J P X に帰属します。

先進国株・・・MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

日本国債・・・NOMURA - BPI 国債

野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

先進国債・・・FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE Fixed Income LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。

新興国債・・・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

■当ファンドのデータ

組入資産の内容

○組入上位ファンド

(2023年3月17日現在)

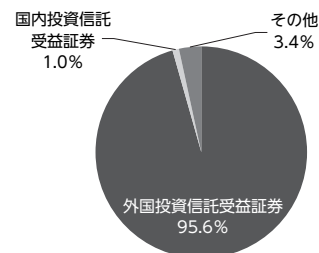
| 銘柄名 | 第10期末 |
|---------------------------------------|-------|
| | % |
| BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス) | 95.6 |
| マネーポートフォリオ・ファンド (適格機関投資家専用) | 1.0 |
| 組入銘柄数 | 2銘柄 |

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

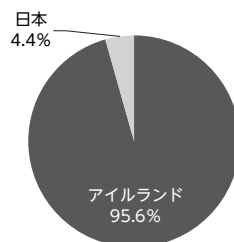
(注) 組入上位ファンドの概要については、21ページ以降をご参照ください。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

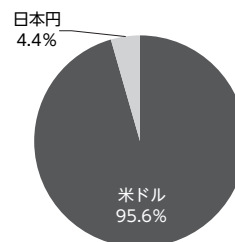
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。小数点第二位以下を四捨五入しており、合計値が100%にならないことがあります。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分につきましては通貨別純資産の比率です。

純資産等

| 項目 | 第10期末 |
|------------|----------------|
| | 2023年3月17日 |
| 純資産総額 | 3,004,714,354円 |
| 受益権総口数 | 2,883,349,852口 |
| 1万口当たり基準価額 | 10,421円 |

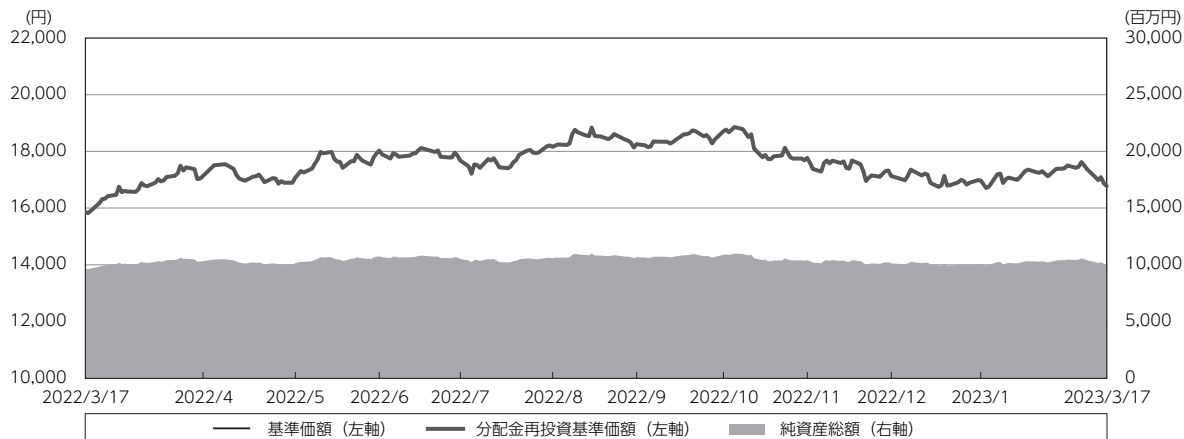
(注) 期中における追加設定元本額は438,117,180円、同解約元本額は292,969,881円です。

BNYメロン・リアル・リターン・ファンド Bコース (為替ヘッジなし)

■運用経過

(2022年3月18日～2023年3月17日)

期中の基準価額等の推移



期首：15,863円

期末：16,775円(既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：5.7%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。期首の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド(USD Xクラス)」は下落した一方、為替市場で円安米ドル高となったことから、当ファンドの基準価額は上昇しました。

以下は、当ファンドの主要投資対象である「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド(USD Xクラス)」の変動要因です。

(上昇要因)

- 2022年10月から2023年1月末にかけて、物価が鎮静化に向かい、米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げペースを緩めるとの観測を背景に世界株式市場が上昇基調で推移する中、株式の保有がプラスに寄りました。

(下落要因)

- 2022年4月から2022年9月末にかけて、ウクライナ情勢の悪化に加えて、インフレ高進を背景にFRBが金融引き締め姿勢を強め世界株式市場が下落する中、株式の保有がマイナスに影響しました。

1 万口当たりの費用明細

(2022年3月18日～2023年3月17日)

| 項 目 | 当 期 | | 項 目 の 概 要 |
|-----------|-------|---------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信託報酬 | 232 | 1.320 | (a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は、17,574円です。 |
| (投信会社) | (72) | (0.413) | 信託財産の運用指図、法定開示書類の作成、基準価額の算出等の対価 |
| (販売会社) | (155) | (0.880) | 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 |
| (受託会社) | (5) | (0.027) | 信託財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価 |
| (b) その他費用 | 91 | 0.517 | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 |
| (保管費用) | (0) | (0.001) | 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (監査費用) | (1) | (0.007) | 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (印刷) | (2) | (0.009) | 目論見書、運用報告書等の印刷・交付等に係る費用 |
| (その他) | (88) | (0.499) | 組入ファンドの管理報酬等 |
| 合 計 | 323 | 1.837 | |

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

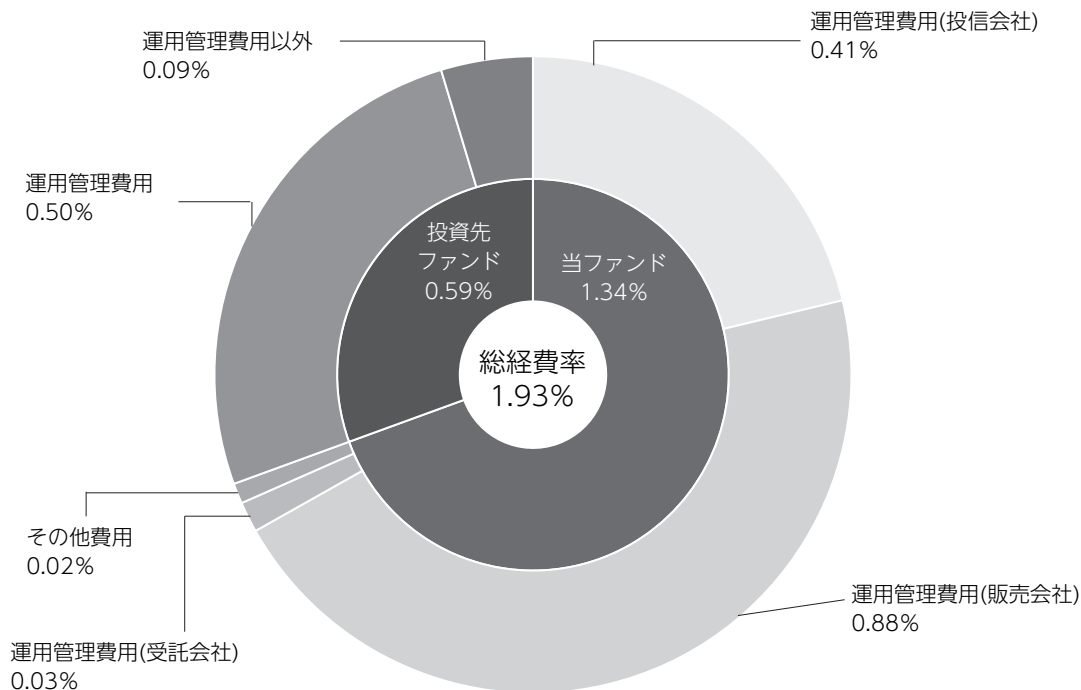
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.93%です。



| | |
|----------------------|-------|
| 総経費率 (①+②+③) | 1.93% |
| ①当ファンドの費用の比率 | 1.34% |
| ②投資先ファンドの運用管理費用の比率 | 0.50% |
| ③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率 | 0.09% |

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

| | 2018年3月19日 第5期末 | 2019年3月18日 第6期末 | 2020年3月17日 第7期末 | 2021年3月17日 第8期末 | 2022年3月17日 第9期末 | 2023年3月17日 第10期末 |
|-------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
| 基準価額 (円) | 11,595 | 12,806 | 11,521 | 14,883 | 15,863 | 16,775 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | 10.4 | △10.0 | 29.2 | 6.6 | 5.7 |
| 純資産総額 (百万円) | 15,715 | 12,968 | 8,757 | 9,526 | 9,638 | 10,041 |

(注) 上記騰落率は、1年前の決算応当日との比較で、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数などは設定しておりません。

投資環境

株式市場

期初、原油高の動きが一巡したことやロシア政府による債務不履行がひとまず回避されたことで投資家心理が改善し2022年3月末にかけて上昇したものの、ウクライナ情勢の悪化に加えてインフレ高進を背景にFRBが金融政策の引き締め姿勢を一段と強める中で長期金利が上昇し、6月半ばにかけて世界株式市場は下落基調で推移しました。その後利上げペースの鈍化期待が広がり8月半ばにかけて反発しましたが、根強いインフレ圧力を背景にFRBが大幅な利上げを継続する姿勢を示したことに加え、英国で財政悪化懸念が台頭したことから、9月末にかけて再度下落しました。

10月以降は底堅さを示す米国経済指標や金融政策動向をにらみ下落する場面が見られたものの、物価が鎮静化に向かう中、米国金融当局が利上げペースを緩めるとの観測を背景に2023年2月初旬にかけて上昇基調で推移しました。期末にかけては米国経済指標が底堅さを示す中で金融引き締めの長期化観測が台頭したほか、米国の一部銀行に対する懸念が高まり軟調となりました。

債券市場

先進国債市場は、FRBが3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）において政策金利の誘導目標を0.25%引き上げ利上げサイクルを開始し、6月の会合では0.75%の大幅な利上げを決定しました。そうした中、先進国債市場は3月から6月前半にかけて急速に下落しました。6月後半から7月は急速な利上げから米国の景気減速懸念が生じて原油価格が下落したため、インフレ鎮静化の見通しが浮上り先進国債市場は反発しました。しかしながら、8月以降はパウエル議長がインフレ抑制のため利上げ継続姿勢を明確にしたことから、再び下落に転じ、秋口までそうした流れが継続しました。

11月以降は、米国や欧州などでインフレのピークアウトの見方が高まる一方で、底堅さを示す米国経済指標を背景に金融引き締めの長期化観測が台頭したほか、米国の一部銀行に対する懸念が高まる中で上下する展開となりました。

為替市場

急ピッチで金融引き締めを行う米国に対して、日本では強固な金融緩和姿勢が維持されるなど、日米金融政策の方向性の違いから、2022年3月から10月半ばにかけて米ドルは円に対して上昇しました。しかし、その後は政府・日本銀行によるドル売り・円買いの為替介入、米国での利上げペース鈍化観測、日本銀行による長期金利の変動許容幅の拡大などから一転して米ドルは対円で下落しました。

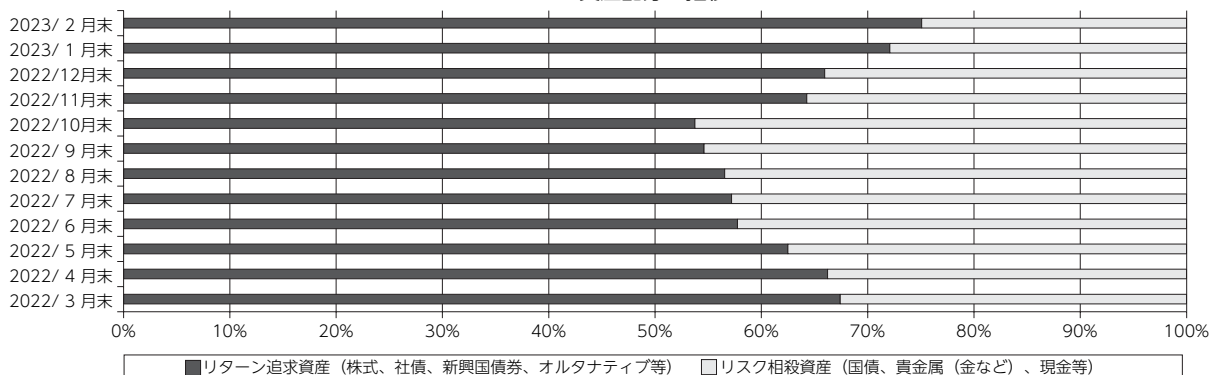
2023年2月以降は堅調な米国経済指標の結果を受けて、FRBによる金融引き締めの長期化観測から米ドルは対円で再度上昇に転じましたが、期末にかけては米国の一部銀行に対する懸念が高まる中でリスク回避姿勢が強まり米ドルは対円で軟調となりました。

当ファンドのポートフォリオ

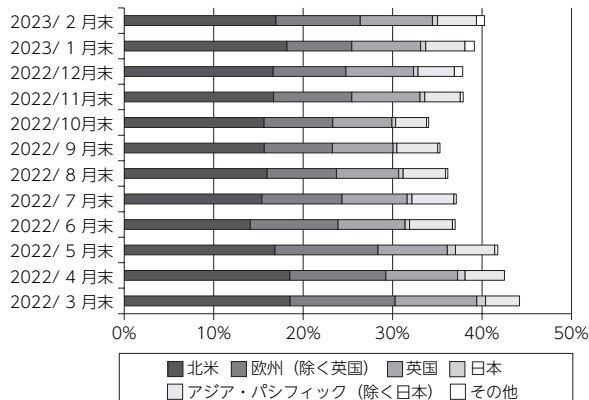
当ファンドは、主として、「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド（USD Xクラス）」及び「マネーポートフォリオ・ファンド（適格機関投資家専用）」に対する投資を行いました。期を通じて「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド（USD Xクラス）」の組入比率を高位に保ちました。為替については、米ドルに対して為替ヘッジを行いませんでした。

主要投資対象である「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド（USD Xクラス）」においては、主として、世界の株式、債券、通貨等を中心に、リート（不動産投資信託証券）、コモディティ（商品）およびその他の代替投資商品（オルタナティブ資産）への投資を行い、様々な投資環境に柔軟に対応しながら、下記のグラフのように投資配分の変更を行い、中長期的に米ドルベースで絶対収益の追求を目指して運用が行われました。

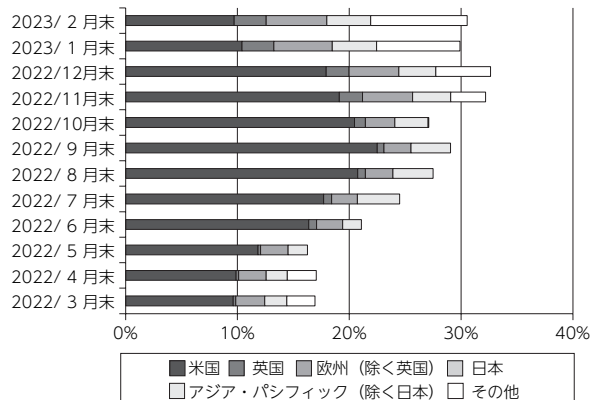
資産配分の推移



株式の国別配分推移



債券の国別配分推移



当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数などは設定していません。

分配金

当期の収益分配については、基準価額の水準等を勘案し、見送りとさせていただきます。分配に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万円当たり、税込み)

| 項 目 | 第10期 |
|--------------------|---------------------------|
| | 2022年3月18日～ 2023年3月17日 |
| 当期分配金 (対基準価額比率) | — —% |
| 当期の収益 | — |
| 当期の収益以外 | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 6,774 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」および「マネーポートフォリオ・ファンド (適格機関投資家専用)」に対する投資を継続してまいります。

投資比率については、「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」への配分を高位に保ってまいります。また、為替については、米ドルに対して為替ヘッジを行いません。引き続き、信託財産の中長期的な成長を目指してまいります。

■お知らせ

●約款変更のお知らせ

当ファンドは、信託期間を10年延長し2033年3月17日までとする約款変更を行いました。また、当ファンドが投資対象とする外国投資信託の管理報酬等の引き上げにより、受益者が実質的に負担する信託報酬の総額を抑制するため、当ファンドの信託報酬率を引き下げる約款変更を行いました。(2022年6月17日付)

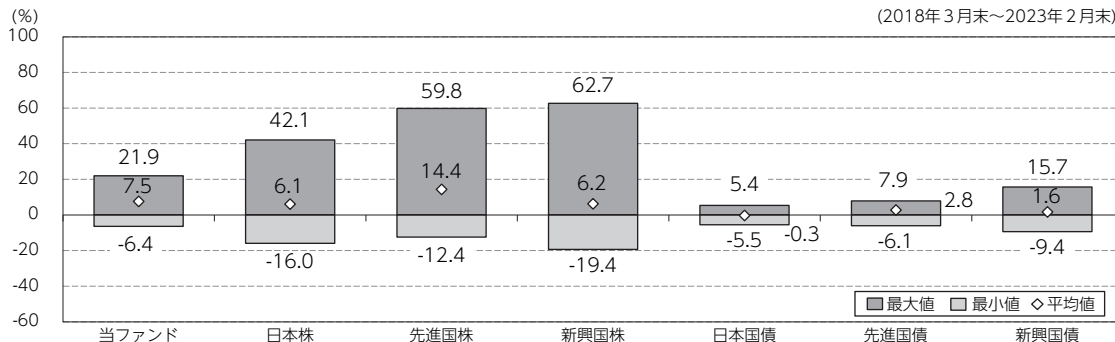
■当ファンドの概要

| | |
|--------|--|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／資産複合 |
| 信託期間 | 2033年3月17日まで |
| 運用方針 | 信託財産の中長期的な成長を図ることを目指して運用を行うことを基本とします。 |
| 主要投資対象 | 米ドルベースで絶対収益の追求を目指すアイルランド籍外国投資信託である「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」および国内籍証券投資信託である「マネーポートフォリオ・ファンド (適格機関投資家専用)」を主要投資対象とします。 |
| 運用方法 | ①「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」の組入比率は高位を保つことを基本とします。 ②「BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)」においては、世界の株式、債券、通貨を中心に、リート (不動産投資信託証券)、コモディティ (商品) およびその他の代替投資商品への投資を行います。また、効率的なポートフォリオ運用およびリスクヘッジ目的でデリバティブ商品に投資を行う場合があります。 ③外貨建資産については、原則として、対円での為替ヘッジを行いません。 ④市況動向、資金動向その他の要因等によっては、上記のような運用ができない場合があります。 |
| 分配方針 | 毎決算時 (原則として毎年3月17日。休業日の場合は翌営業日) に、原則として、基準価額水準等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。 |

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2018年3月末～2023年2月末)



(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年3月から2023年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社 (以下「J P X」という) が算出・公表している、日本の株式を対象として算出した株価指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J P X に帰属します。

先進国株・・・MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

日本国債・・・NOMURA - BPI 国債

野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

先進国債・・・FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE Fixed Income LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。

新興国債・・・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証をいたしません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

■当ファンドのデータ

組入資産の内容

○組入上位ファンド

(2023年3月17日現在)

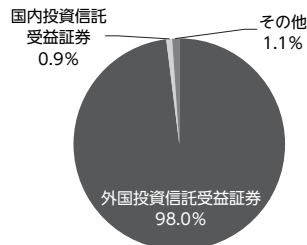
| 銘柄名 | 第10期末 |
|---------------------------------------|-------|
| | % |
| BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス) | 98.0 |
| マネーポートフォリオ・ファンド (適格機関投資家専用) | 0.9 |
| 組入銘柄数 | 2銘柄 |

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

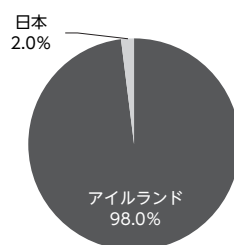
(注) 組入上位ファンドの概要については、次ページ以降をご参照ください。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

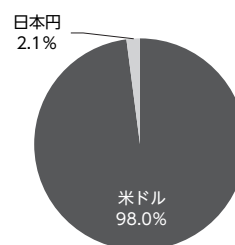
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。小数点第二位以下を四捨五入しており、合計値が100%にならないことがあります。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分につきましては通貨別純資産の比率です。

純資産等

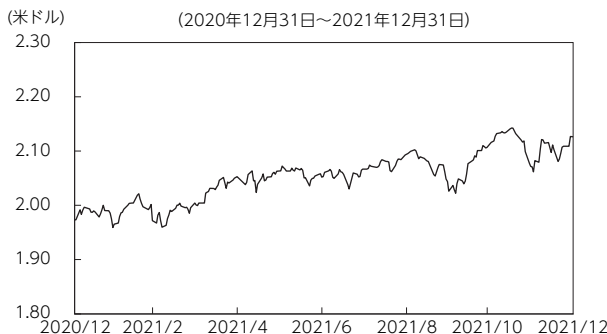
| 項目 | 第10期末 |
|------------|-----------------|
| | 2023年3月17日 |
| 純資産総額 | 10,041,628,776円 |
| 受益権総口数 | 5,986,219,511口 |
| 1万口当たり基準価額 | 16,775円 |

(注) 期中における追加設定元本額は913,182,220円、同解約元本額は1,002,762,168円です。

組入上位ファンドの概要

◆BNYメロン・グローバル・リアル・リターン・ファンド (USD Xクラス)

【基準価額の推移】



【1口当たりの費用明細】

直近の主要投資情報書面にて開示されている継続手数料 (ongoing charge) は0.09%です。

(注) 当ファンドの本書作成時点にて開示されている直近の会計年度末は2021年12月31日です。

【組入上位10銘柄】

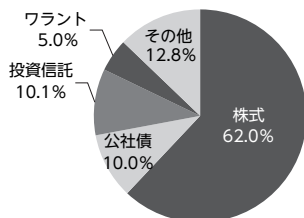
(2021年12月31日現在)

| | 銘柄名 | 種別 | 通貨 | 国(地域) | 比率 % |
|-------|---|------|-------|--------|------|
| 1 | United States Treasury Note/Bond 2.000% 15-Feb-2022 | 公社債 | 米ドル | 米国 | 6.4 |
| 2 | WisdomTree WTI Crude Oil - ETF | 投資信託 | 米ドル | ジャージー | 2.5 |
| 3 | Barclays Bank Plc (WTS) 12-Aug-2022 | ワラント | 米ドル | 英国 | 1.9 |
| 4 | Linde Plc | 株式 | 米ドル | アイルランド | 1.9 |
| 5 | Barclays Bank Plc (WTS) 15-Aug-2022 | ワラント | 米ドル | 英国 | 1.8 |
| 6 | JPMorgan Chase & Co | 株式 | 米ドル | 米国 | 1.6 |
| 7 | Norfolk Southern Corp | 株式 | 米ドル | 米国 | 1.6 |
| 8 | AstraZeneca Plc | 株式 | 英ポンド | 英国 | 1.5 |
| 9 | Alphabet Inc - Class A | 株式 | 米ドル | 米国 | 1.4 |
| 10 | Microsoft Corp | 株式 | 米ドル | 米国 | 1.4 |
| 組入銘柄数 | | | 129銘柄 | | |

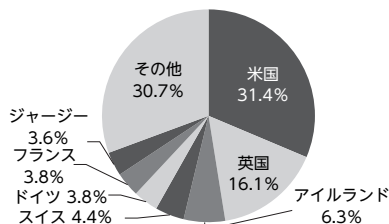
(注) すべてのクラスを含んだ内容です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

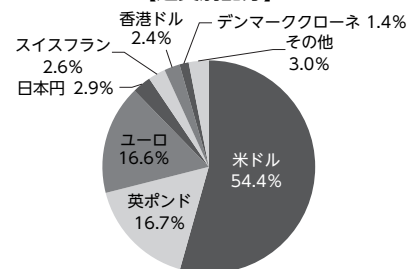
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



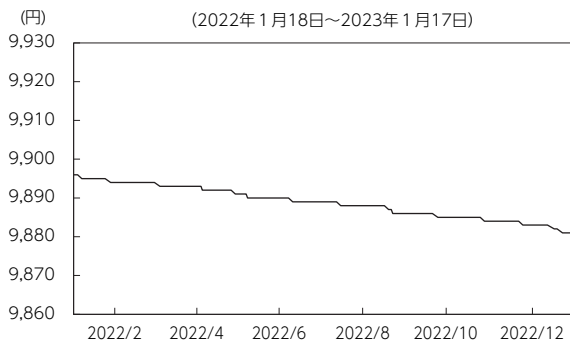
(注) 小数点第二位以下を四捨五入しており、合計値が100%にならないことがあります。

(注) 通貨別配分は有価証券部分を100%として当社が計算した構成比です。

(注) すべてのクラスを含んだ内容です。

◆マネーポートフォリオ・ファンド（適格機関投資家専用）

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年1月18日～2023年1月17日)

| 項目 | 当期 | |
|--------------------|----------|------------------|
| | 金額 | 比率 |
| | 円 | % |
| (a) 信託報酬 (投信会社) | 3 (2) | 0.033 (0.021) |
| (販売会社) | (1) | (0.007) |
| (受託会社) | (1) | (0.005) |
| (b) その他費用 (その他) | 2 (2) | 0.022 (0.022) |
| 合計 | 5 | 0.055 |

期中の平均基準価額は、9,889円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 当ファンドの決算は、年1回であり、直近の決算期末（第13期末）は2023年1月17日です。

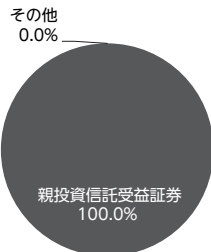
【組入上位ファンド】

| 銘柄名 | 第13期末 |
|--------------------|---------|
| マネーポートフォリオ・マザーファンド | 100.0 % |
| 組入銘柄数 | 1銘柄 |

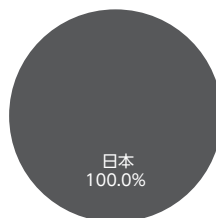
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

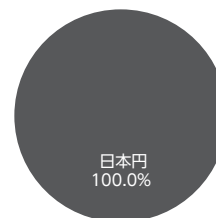
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

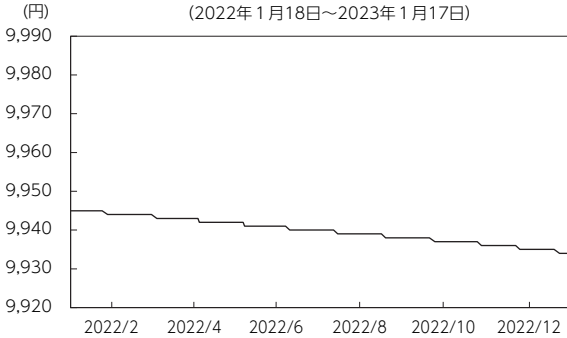


(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

＜ご参考＞ マネーポートフォリオ・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万円当たりの費用明細】

(2022年1月18日～2023年1月17日)

| 項目 | 当期 | |
|--------------------|----------|------------------|
| | 金額 | 比率 |
| | 円 | % |
| (a) その他費用 (その他) | 2 (2) | 0.022 (0.022) |
| 合計 | 2 | 0.022 |

期中の平均基準価額は、9,940円です。

(注) 当ファンドの決算は年1回であり、直近の決算期末は2023年1月17日です。

【組入上位10銘柄】

(2023年1月17日現在)

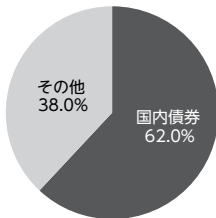
| | 銘柄名 | 業種/種別等 | 通貨 | 国(地域) | 比率 |
|-------|--------------|--------|-----|-------|------|
| | | | | | % |
| 1 | 第1088回国庫短期証券 | 国債 | 日本円 | 日本 | 62.0 |
| 2 | — | — | — | — | — |
| 3 | — | — | — | — | — |
| 4 | — | — | — | — | — |
| 5 | — | — | — | — | — |
| 6 | — | — | — | — | — |
| 7 | — | — | — | — | — |
| 8 | — | — | — | — | — |
| 9 | — | — | — | — | — |
| 10 | — | — | — | — | — |
| 組入銘柄数 | | | 1銘柄 | | |

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

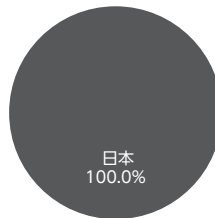
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

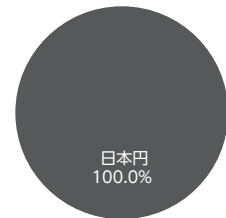
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。